twilight world

江角 稚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
twilight world

【Ｎコード】
Ｎ６７０４Ｘ

【作者名】
江角　稚

【あらすじ】
とある男の逃亡日記。

今、言えるのはそれだけです。そもそもtwilightとは、”はっきりしない状況，やみの部分．”と言う意味ですから。
曖昧なる世界に、包まれて見て下さいませ。

第一話（前書き）

ちょこちょこ書き溜めて、しばらく溜まったら投下する…と言う、マイペースな物を一つ作ろうかと。
頑張って”ハイペースなマイペース”になれば良いのですが。

とか言って、また散策するのでしょうが。理由は、ネタ探しです。

第一話

「俺は女を殺した。殺してしまった。じきに警察が、此処にやって来るだろう。その前に、逃げなければ。どうしても此処から、逃げ出さなければ…」

そして気がついたら、俺は狭い裏路地にいた。薄暗さが奇妙な温もりを作り、俺を匿うように抱いてくれる。

さて、どうしたものか。

俺はひとまず落ち着いて、呼吸を整えてから考えた。

…随分と走ったようだ。周りの景色が、何もかもが分からぬ。まるで、異国の地へと迷い込んだようだ。

土地勘がなければ、逃げるのは不利だ。かと言って、自宅へ帰る気にもなれない。

もしも俺が殺人犯だと知れたら、捕まってしまうから。どうしても俺は、捕まることを避けねばならない。

幸い、仕事も尋ねて来る友人もない。親も、とっくの昔に亡くなった。俺が帰らなくとも、不審がる人物などいない。

かと言って、いつまでも逃げ続ける訳にもいかないのだが。

一体、どうすれば良いのだろう。

しかし、疲れた。これ程の距離を走ったのは、久しぶりだ。
あぁ、もう駄目だ…。

また、意識は遠退いていった。

朝だ。俺はこのまま、一夜を明かしたらしい。人通りの少ない道が幸運をもたらしたのか。それとも、ただ酔い潰れたサラリーマンにしか見えなかったのか。

どうでも良いが、こんなラッキーがいつまでも続くとは思えない。今晩は、何処か別の場所へ行かなくては。

それにしても…腹が減った。喉も渇いている。

それもそうだ。夕べから、何も口にしていないのだから。

夕べは、何があったんだっけ。
上手く思い出せない。

白く細い、女の首筋。

跳ねる喉。

力を込めた指先。

そして、事が終わった後に押し寄せる、引っ掛かれた傷の痛み。

…あぁ、そうだ。
俺は、逃亡中の殺人犯だったっけ。

ふと見ると、両腕には引っ掻き傷が残っていた。まるで、断末魔の叫びを腕に描いたような美術性。

その刻み込まれた作品に、俺の興味はちっとも湧きもしなかったが。

ただ、痛みはない。
残ったのは、ただのミミズ腫れだけだ。

勿論、この傷を見たからと言って、心が痛むこともなく。

何と無く、傷が癒える頃には殺人のことも、綺麗さっぱり忘れられる気がした。

第二話

この見知らぬ街をさ迷うこと、三時間。
初見の地は不慣れだ。
…しかし、地図を買う訳にもいかず。

もしこのタイミングで地図などを買い、俺がこの街の新参者だと世間に知れたら――疑われることこの上ない。

と、言う訳で。
仕方なしに、徒歩で巡る。昼間とは言え、人通りの多い街を。

もしも今が冬なら、コートの襟を立てて顔を隠すことも出来るのだが…あいにく今は、望みとは正反対の季節だ。

――いや。正確には、もう夏ではない。

暦上では、もう九月下旬だ。それなのにこの残暑とも言うべき蒸し暑さは、真夏を感じさせる。特に、頭上でギラギラ照り付ける太陽とか。

夕べはアスファルトからなる路上で眠ったからか、腰も痛いし眠気も覚めない。きっと眠りが浅かったんだ。――もしくは、殺人のために興奮して眠れなかったか。
それでも、女一人殺し、この街まで命からがら逃げ切った疲れで気を失った、とも考えられるが。

…とにかく。
眠い。…眠い。ねむい。

その三文字が、頭の中をグルグルと駆け巡る。

”眠いなぁ…”声にならないため、心の中で呟く。

そう、喉は未だに渇いたままなのだ。さっき自販機は見付けた。だが、残り少ない小銭を使いたくなかったのだ。

ちくしょう。札入れも通帳も、全部家に置いて来ちまった。

…たまたま小銭入れが上着のポケットに入っていたのは、不幸中の幸いなのだが。

表通りは目立つため、脇道に入る。そして裏道の入り込み具合に驚いた。

”まるで…迷路だな”

迷子になったら最後、抜け出すことも難しい。いや、いざとなったら隠れやすい、とも言い換えられるか。

そんなことを考えていると、前から大勢の人がやって来た。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6704x/

twilight world

2011年10月30日14時10分発行